

はじめに

地球温暖化対策は今や人類の未来の生存、繁栄にとって世界共通の懸案事項であり、各国が総力を上げて取り組む重要課題の一つとなっています。我が国においても温室効果ガスを2020年までに1990年比25%削減する中期目標を掲げており、低炭素社会の実現に向けた取組みをより一層推進することが求められています。

このような状況の中、文部科学省では平成9年度から環境を考慮した学校（エコスクール）づくりを推進するとともに、これまで約1,100校の公立小中学校をパイロット・モデル事業として認定するなどエコスクールの整備普及に努めています。また、平成19年度には、今後のエコスクールの推進方策について有識者会議において検討を行うこととし、学校施設を取り巻く状況の変化、最新のエネルギー消費実態、エネルギー消費の長期的展望などの観点から調査研究を行いました。平成21年3月には、その成果として、今後は全ての学校についてエコスクール化を目指すことが重要であるとの観点が示されるとともに、そのための推進方策が提案されました。

一方、公立小中学校施設の課題としては、建物の耐震対策に加え、建築後20年以上を経過した建物が全体の約8割を占めていることから、今後とも耐震補強を含めた膨大な量の老朽対策のための改修整備が必要です。また、改修整備を行う際には、耐震対策などに加えて、適切な学習環境の確保を目的とした室内環境の質的改善や、地域住民等への学校開放のために多目的利用を可能とする施設の充実などを図ることが一般的であるため、何も環境対策を講じなければ改修後の学校全体のエネルギー消費量は増加してしまうこととなります。

このため、今後、学校施設の新築、改築又は改修整備を実施する際は、子どもたちの快適な学習環境を確保しつつ、省エネ対策や省CO₂対策を併せて実施して「エコスクールづくり」に積極的に取り組むことが重要であると考えます。

本事例集では、既存学校施設のエコスクールづくりの推進に資することを目的として、整備事業に取り組む際の基本的な考え方や手順、並びに先進的なエコスクールへの取組みを行っている学校設置者や個々の学校の事例について紹介しています。

低炭素社会実現に向け、本事例集が活用され、学校や設置者において、既存学校施設のエコスクールづくりが推進されるとともに、子どもたちや地域の環境・エネルギー教育に一層活用されることを期待するものです。

平成22年5月

すべての学校でエコスクールづくりを目指して

—既存学校施設のエコスクール化のための事例集—

—CONTENTS—

はじめに

I 現状と今日的課題 ～今、なぜ既存学校施設のエコスクール化なのか～

- 1 地球温暖化問題とこれまでの取組** 1
- (1) 我が国の地球温暖化対策の現状
 - (2) 文部科学省の取組
- 2 既存学校施設のエコスクール化の課題** 3
- (1) 既存学校施設の基本的な課題
 - (2) 既存学校施設のエコスクール化の課題

II 既存学校施設のエコスクール化の進め方 ～何から始めたらよいか～

- 1 基本的な考え方** 5
- ・ 実態を把握し、効率的な施設運営を目指す
 - ・ 施設水準の確保と環境負荷低減の両立を目指す
 - ・ 地域の環境・エネルギー教育の拠点を目指す
- 2 エコスクール化の手順とポイント** 7
- ・ 準備段階
 - ・ エコスクール化計画の策定
 - ・ 改修整備の検討・実施
 - ・ 整備後の環境・エネルギー教育での活用
 - ・ 関係機関との連携・成果の普及
- 参考1：既存学校施設のエコスクール化の具体的なプロセス（イメージ）
参考2：エコスクールに関する報告書、関連施策等

III 取組事例 ～先進的な取組から学ぶ～ 12

1 自治体におけるすべての学校のエコスクール化の取組

- 事例1** 東京都杉並区 13
- 事例2** 神奈川県藤沢市 19

2 既存学校施設のエコスクール化の取組

■ 総合的な取組みの例

- 事例3** 東京都荒川区立第七峡田小学校 25
- 事例4** 岐阜県高山市立北小学校 31

■ 効果的なエコスクール化のアイデア

- 事例5** エネルギー消費実態を把握しやすくし、効率的な施設運営を目指した例 37
- 事例6** 施設水準の確保と環境負荷低減の両立を目指した例 39
- 事例7** 地域の環境・エネルギー教育の拠点を目指した例 43

IV 参考資料 46